

# 令和芽生える絆

令和初日の1日、新たな命が生まれ、婚姻届を出すカップルが相次いだ。記念のイベントに出掛けたり、寺社の御朱印を求めたりする人も。県内各地で新時代への期待が膨らんだ。

新元号「令和」を迎えた1日、県内では各地で新しい命が誕生した。「世界に羽ばたいて」「元気にすくすくと」。さまざまな願いに包まれ、新時代を担う「令和ベビー」が続々と元気に産声を上げた。

令和初日に誕生した青山綾七さんの長男＝1日午後2時8分、羽島郡笠松町田代、松波総合病院



## 「初日ベビー」県内次々

明るく育ってほしいと願った。同市市橋の松浦美樹さん(25)は3775gの次男を出産。予定日は4月21日だったが、「令和の初日を選んでくれたのかな」と夫の結人さん(26)。長男の叶真ちゃん(1)と寝顔を見つめ、「記念すべき日に生まれてきてくれた」と笑顔を見せた。

「すくすくと

羽ばたいて」

羽さんが第一候補だといい、寛典さんは「朗らかに、世界へ羽ばたいてほしい」と目を細めた。平成元年生まれの青山綾七さん(29)＝川崎市＝は、2706gの男の子を出産。予定日の4月27日から遅れ、平成生まれか令和生まれか、どちらになるか心待ちにしていた。「令和は多様な人と共生する時代になると思う。自分の考えや意志を持ち、軸のある子に育ってほしい」と願いを込めた。

(大賀由貴子、舌間隆博)



生まれたばかりの次男を見つめる松浦美樹さん(右)ら＝1日午後4時50分、岐阜市津島町、操レディスホスピタル